

平成 22 年度東北環境パートナーシップオフィス運営業務報告書

目次

I	業務の目的	2
II	業務の内容	2
1	事業.....	2
	(1) 環境パートナーシップの推進.....	2
	(2) 情報の受発信	8
	(3) 環境政策づくり	11
	(4) 他の団体等への協力.....	11
2	運営.....	13
	(1) スタッフ	13
	(2) 業務運営計画の策定.....	13
	(3) 地方環境事務所との協働での事業実施.....	13
	(4) 自己評価	14
	(5) パートナーシップ会議の設置.....	15
	(6) 評議委員会の設置	16
	(7) 業務日及び施設等の維持・管理	16
	(8) 個人情報の管理.....	17
III	平成 22 年度事業の総括と課題.....	17
	(1) 活動の主軸.....	17
	(2) 総括	17
	(3) 課題	18

I 業務の目的

運営の第二期目に入る東北環境パートナーシップオフィス（以下「EPO 東北」）においては、第一期事業の実績を踏まえ、東北地区の国民、民間団体、事業者等様々な主体の協力を得て、環境パートナーシップを推進するための各種事業を企画・運営することにより、各主体がよりよい地域、環境、社会をつくるために連携・協働することによる「持続可能な地域づくり」の実現を目指すことを目的に、各種事業を実施した。

II 業務の内容

第二期目の EPO 東北では、第一期の実績を引き継ぎながらも更なる発展を目指し情報発信ツールの見直しや、新たに設置した各県の活動拠点となるパートナーシップ団体と連携して各種事業を展開しながら、新たなネットワークの構築や情報収集を進めた。

1 事業

(1) 環境パートナーシップの推進

ア パートナーシップ団体等との協働事業「EPO東北キャラバン」の実施

事業実施時に各県の拠点となる中間支援組織等の団体（パートナーシップ団体）との連携体制を構築し、その団体と連携して情報収集・意見交換を行い、地方環境事務所と共に地域で何が求められているか等を分析の上、それに関係するテーマで、当該団体等と連携の上、問題解決に向けたイベントを北東北1ヵ所、南東北1ヵ所で開催した。

i) 川崎の森を育む家づくりねっと講演会「川崎の森 現在・過去・未来」

日時：平成23年2月6日（日） 13:30～16:00

場所：川崎町山村開発センター3階大会議室

参加者数：約130名

内容：①基調講演

湯浅勲氏（日吉町森林組合理事兼参事）

「森林再生への道を語る」

②事例発表・パネルディスカッション

・小杉徳彦氏（宮城県林業振興課）

・小野寺信氏（川崎の森を育む家づくりねっと家づくりねっと）

・佐藤達也氏（施工者）

ii) 「環境活動を進めるために必要なコミュニティと協働」青森フォーラム

～コミュニティ力が、子ども・地域医療・地球を救い出す～

日時：平成23年2月26日（土） 18:00～20:00

場所：青森市文化観光交流施設「ねぶたの家 ワ・ラッセ」

対象者数：100 人程度

内容：①基調講演

金子 郁容 氏（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授）
「ソーシャルキャピタルを活かした地域医療の成果」

②事例発表・パネルディスカッション

・柏谷 弘陽 氏（横浜町教育長）

「村民熟議から、CO2ゼロの学校を目指す。」

・石木 基夫 氏（NPO法人 生き粋あさむし代表（医師））

「コミュニティ食堂で高齢者の栄養バランスを守る。」

・工藤 健 氏（NPO法人ジュニア・グローバル・トレーニング・
スクール代表）

「国境を越えた交流キャンプから国際子どもコミュニティへ。」

・佐藤 晋也 氏（五所川原農林高校校長）

（あぐりていーんねっと・あきたとあおもり代表）

「農業高校生のパワーで、北東北と地球環境を動かす。」

・コーディネート：島 康子 氏

（あおぞら組組長／青森県教育委員長代理）

イ 生物多様性をテーマにしたイベント

本年 10 月に開催された生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）とその結果への関心を高めるために、生物多様性をテーマにしたシンポジウム等を北東北 1 ヲ所、南東北 1 ヲ所で実施した。

i) 生物多様性シンポジウム「生物多様性と私たちの暮らし」

日時：平成 22 年 10 月 3 日（日） 13:30～16:00

場所：山形国際交流センター

参加者数：58 名

内容：①基調講演

江頭宏昌氏（山形大学農学部 准教授）

「種の多様性」

②事例発表・パネルディスカッション

・江頭 宏昌 氏（山形在来作物研究会）※山形県

・渡辺 智史 氏（映画監督「よみがえりのレシピ」）※山形県

・清水 智子 氏（食育 NPO「おむすび」代表）※宮城県

・山際 博美 氏（ヴィライナワシロ 総料理長）※福島県

- ・廣澤 一浩 氏（株式会社仙台水産）※宮城県
- ・コーディネーター：古池 常泰 氏（フリーアナウンサー）

ii) 生物多様性シンポジウム「八郎湖まるごと体感エコツアー」

日程：平成 22 年 10 月 23 日（土）9：30～16：30

場所：中村征夫フォトギャラリー ブルーホール

参加者数：44 名

内容：①体験ツアー 10：30～11：30 会場：八郎湖周辺

以下 3 つの中から希望コースに参加してもらう体験ツアーを実施。

- A.水草植え付け体験
- B.木炭による水質浄化体験
- C.野鳥観察

②トークセッション 14：00～15：30

第 1 部

環境漫才＜林家ライス・カレー子＞

第 2 部

八郎湖の環境と生物多様性に関するシンポジウム

- ・小松 守 氏（大森山動物園園長）
- ・堤 朗 氏（環八郎湖市民ネットワーク代表）
- ・石川 久悦 氏（潟船保存会）
- ・石川 紀行 氏（草木谷を守る会）
- ・司会：高橋 鳩子 キャスター

ウ 中間支援組織交流会の開催

各地の中間支援組織やネットワークをつなぎ、中間支援組織等の活動力を高め、東北地域での協働を促進するため、東北地域の中間支援組織を対象に中間支援組織交流会を開催する。

日時：平成 23 年 3 月 2 日（日） 13:30～16:00

場所：東北環境パートナーシップオフィス会議室

対象者数：15 人程度

内容：①基調講演

関口 宏聡 氏（シーズ・市民活動を支える制度をつくる会）
「市民公益税制改正について話題提供」

②事例発表

・中橋勇一氏（青い森ファンド運営委員長）

「青い森ファンドについて」

・鈴木和隆氏（うつくしま NPO ネットワーク事務局長）

「住民による新たな県民運動円卓会議について」

③意見交換会

参加団体（各県2団体）

青森県	あおもり NPO サポートセンター	NPO 推進青森会議
岩手県	アイディング	いわて NPO フォーラム 21
宮城県	いしのまき NPO センター	杜の伝言板ゆるる
秋田県	あきたパートナーシップ	あきた NPO コアセンター
山形県	山形創造 NPO 支援ネットワーク	山形の公益活動を応援する会・アミル
福島県	うつくしま NPO ネットワーク	ふくしま NPO センター
オブザーバー	せんだい・みやぎ NPO センター	

エ EPOサロン

EPO会議室を利用し、把握した環境課題の掘り下げ等の勉強会等を4回開催した。

i) 1回目：お香×ECOlogy～日本の伝統文化に見る生物多様性

日時：平成22年8月29日（日）10:00～12:00

場所：東北環境パートナーシップオフィス会議室

参加者数：21名

内容：講話

三品 隆昭 氏（香道大枝流）

企画監修：山田一裕教授（東北工業大学工学部環境情報工学科）

ii) 2回目：郷土食×ECOlogy～みやぎとずんだと地産地消～

日時：平成22年9月25日（土）10:00～12:00

場所：東北環境パートナーシップオフィス会議室

参加者数：20名

内容：講話

佐藤 れい子 氏、千葉 先子 氏（みやぎの食を伝える会）

企画監修：山田一裕教授（東北工業大学工学部環境情報工学科）

iii) 3回目：公開研究会「地域資源の再認識による価値の創造」

日時：平成22年10月7日（日）14:00～16:00

場所：東北環境パートナーシップオフィス会議室

参加者数：20名

内容：講話

- ・中野豊氏（NPO 環境保全会議あいづ理事）
- ・坂内孝浩氏（会津若松市環境生活課）
「会津若松市菜の花フェスティバル実行委員会による資源循環・地域活性化の取り組み」
- ・菊地 重雄 氏（コメンテーター：川崎町の資源をいかす会）

iv) 4回目：「東北×Ecology ～生物多様性とスローな東北文化～」

日時：2011年3月3日（木）18：00～19：30

場所：東北環境パートナーシップオフィス会議室

参加者数：26名

内容：対談

中静透氏（東北大学大学院生命科学研究科教授）

風見正三教授（宮城大学事業構想学部事業計画学科）

企画協力：宮城大学事業構想学部事業計画学科 風見研究室ゼミ生

オ ESD活動の支援

東北地方環境事務所が行った ESD 推進フォーラム事業（3ヶ所）と連携し、ネットワーク化の支援を行うために下記の取り組みを行った。

- i) 地域の ESD 活動の掘り起こし
- ii) 関係地域への他地域の取り組みの情報提供
- iii) 関係地域と ESD 推進フォーラムとの結びつけ
- iv) ESD 推進フォーラム開催の協力

地方環境事務所が行った ESD 推進フォーラム事業と連携するため、以下の取り組みを行った。

ア 「ESD 東北フォーラム 2010in あきた」

開催に向けて結成された実行委員会へ委員として 3 回の会議に参加し、企画・運営の一翼を担った。

①第一回実行委員会

平成 22 年 8 月 30 日 14：00～16：15

②第二回実行委員会

日時：平成 22 年 9 月 30 日 14：00～16：00

③第三回実行委員会

日時：平成 22 年 10 月 19 日 14：00～16：15

④ 「ESD 東北フォーラム 2010in あきた」

日時：平成 22 年 11 月 7 日 13：30～16：00

内容：

○基調講演

「未来へつながる地域づくりのために～持続可能な社会づくり～」

講演者：小金澤孝昭氏（仙台広域圏 ESD/RCE 運営委員会委員長）

○パネルディスカッション

コーディネーター：森園浩一氏（国際教養大学教授）

事例紹介

「五感で環境を伝える～小学低学年向け環境学習の試み～」

三浦良幸氏（秋田市環境部環境都市推進課）

「何時でも、何処でも、誰とでも～自然豊かな地元を案内して～」

佐々木皓史氏（自然観察指導員）

「地球を冷やしたい番組「くるくる 000000L」の制作現場から」

大島貴志子氏（エフエム秋田「くるくる C000000L」

メインパーソナリティ）

アドバイザー：小金澤孝昭氏（宮城教育大学教授）

○ポスターセッション

・ 秋田木育プロジェクト

「木と森に学び、共に生きる。そして生命を伝える木育プロジェクト」

・ エヌエス環境株式会社東北支社秋田支店

「生物多様性を探る（いきものってなあ～に）を楽しくわかりやすく」

・ 株式会社秋田ダイドー

「鹿角の里山で、一緒に遊びませんか？森のこと、もっと知ってみませんか？みんなで豊かな水と森を創りましょう。」

・ SiNG

「環境にやさしい、豊かな社会を目指して」

・ +ESD プロジェクト事務局（ESD-J）

「学びをつなぐ未来をつくる「+ESD プロジェクト」みなさんの活動も ESD につながっている、ESD 応援プロジェクト」

・ 森の案内人

「地域の森林（もり）と文化を伝える」

イ 「持続可能な地域づくりセミナーin 東北・福島」

①セミナー当日の運営等

日時：平成 23 年 2 月 12 日 13：00～16：00

内容：

< I 部 > 持続可能な地域づくり報告

福島県地域振興課

福島県天栄村

宮城県七ヶ宿町・NPO 法人水守の郷

NPO 法人うつくしま NPO ネットワーク

< II 部 > 持続可能な地域づくり円卓会議

(2) 情報の受発信

ア 重点的に収集・整備した情報

以下のテーマについて情報を収集し、イベント情報・募集情報・パンフレット情報に分けて整備した。

- (ア) 生物多様性に関する情報 (COP10 関連)
- (イ) 東北地区における ESD 関連情報
- (ウ) 自然エネルギーや資源の活用において環境保全に繋がる事例
- (エ) 企業と地域の連携した取組の事例
- (オ) 他の地方環境パートナーシップオフィスの業務内容
- (カ) 環境省以外の省庁等の施策・事業に関する情報
- (キ) その他の情報

イ 収集方法

以下の方法を用いて情報収集に努めた。

- (ア) 各地に出かけ、パートナーシップ団体との情報・意見の交換
- (イ) GEOC (旧 GEIC)、地方 EPO 等との情報・意見の交換
- (ウ) 「1 環境パートナーシップ推進」等事業の実施を通じて行う関係者・事業参加者との情報・意見の交換
- (エ) メーリングリスト等を活用したパートナーシップ団体等との情報交換
- (オ) Web 新聞等 Web サイトの閲覧、メールマガジンの購読等

新聞情報については東北 6 県の新聞社各社が掲載した記事を東北地方環境事務所より提供いただいた。

ウ 情報の整備及び発信

- (ア) テーマを決め、調査票を用意する等して情報を収集し、整備を図った。
各種情報の収集記録、打ち合わせ記録フォーマットを作成し、整備を行った。
- (イ) 収集した情報・意見については、その都度記録・整備を図った。

各種情報の収集記録、打ち合わせ記録フォーマットを利用し、記録・整備を行った。収集した情報を基に、発信すべき事項・内容について検討し、発信した。

- (㉞) 収集した情報について発信等その活用状況及び発信の効果について整理した。ホームページのアクセス解析を行うことにより、情報更新後やメールマガジン配信後のアクセス数を分析し、発信の効果を整理した。
- (㉟) 担当が変わっても常に集積した情報を活用できるよう、情報を分類して整理するとともに、必要に応じてデータベース化した。
- (㊀) 各種記録事項については分類ごとに統一フォーマットを作成し、その都度記録を行いデータベースを作成した。
- (㊁) 担当不在時または担当交代時にも各団体との連携がスムーズとなるよう、名刺交換でいただいた名刺をデータベース化した。

エ 媒体

(㉟) EPO 東北のホームページ管理運営

i) ホームページの再構築

2009年度末(2010年3月31日)をもってレンタルサーバーの契約期間満了を迎え、2010年度4月1日以降20日間ホームページは閉鎖となった。前期まで使用していた更新システムが利用できないことから、ホームページ作成ソフトを利用し再構築を行った。

2010年4月21日にEPO東北ホームページを公開した。再構築にあたり、更新の手法と掲載内容の見直しを行った。

ii) アクセス解析の実施

閲覧者のニーズを図りページ作りにいかすため、無料のアクセス解析サイトに登録し、アクセス数・検索キーワードなどを解析した。

iii) 情報の受発信

以下の情報について積極的に収集し、寄せられた情報とあわせてホームページに掲載した。

(㊀) メールマガジンの配信

i) 登録者名簿の整理

運用前に継続確認のメールを配信し、卒業・転居・転勤等で使用不能となっているメール、登録解除希望者の整理を行い、新たに登録者管理名簿を作成した。

これにより、2010年度4月以降の新規登録者については氏名・所属・登録日・申し込み方法(メール申し込み/イベント参加時の申し込み)を記録した。

ii) 運用システムの変更

登録者管理と配信システムを見直し、EPO 東北スタッフ全員が登録作業簡単に行えるよう、ネット上で登録者の追加・削除ができる「さくらのメールボックス」と契約し、5月より運用を開始した。

iii) 登録者数 2011年2月23日現在 1,393名

iv) メールマガジンの発行

① 配信内容の見直し

配信内容を見直し、イベント情報だけではなく EPO 東北で収集した各地の環境活動情報等も配信内容に盛り込んだ。

② 配信頻度

毎月上旬発行とし、不定期にイベント告知等のため増刊号を発行した。

③ 2010年度の配信実績 累計 14回配信

(v) メーリングリストの活用

各パートナーシップ団体との情報共有・意見交換の場と位置づけ、メーリングリストを設置し活用した。

(x) 機関紙「EPO 通信」の発行（年2回、8頁600部）

i) 紙面リニューアル

環境団体や市民が手に取り EPO 東北や東北各地の環境活動を知るきっかけとなる紙媒体と位置づけ、内容を一新した。東北の拠点団体であることを鑑み、東北6県各地の記事を掲載し、タイムリーな環境情報を掲載する構成とした。

ii) 発行と発送

9月、1月に発行し、会議室利用促進のために仙台市内の文化施設等へ送付するなど発送先を見直した。

iii) 他団体とのパートナーシップ

作成にあたっては多くの団体に執筆の協力をいただき、発行後の配布にも協力いただいた。

(v) その他情報受発信

各種団体の催事チラシやパンフレット等を EPO 東北事務所に設置し、希望者が自由に閲覧・持ち帰れるようにした。

オ 生物多様性 COP10 に係る全国 EPO と連携

(3) 環境政策づくり

環境パートナーシップいわて、GEOC と連携し岩手県で課題になっているエコ住宅の推進をテーマに政策提言セミナーを2回連続講座で行った。第1回目では「政策提言のい・ろ・は」と題し政策提言の基礎知識、そして「第9回 NGO/NPO・企業の環境政策提言」にて優秀提言の事例紹介を行い、2回目では実際に行政側の状況の説明の後、ワークショップを行った。

i) 1回目：基礎講座「政策提言のい・ろ・は」

日程：平成23年1月27日（木）18:00～21:00

場所：いわて県民情報交流センター アイーナ6F 団体活動室

会場参加者数：22人

インターネット中継参加者数：30名

内容：①基調講座

遠藤智栄氏（地域社会デザイン・ラボ代表）

「政策提言のい・ろ・は」

②事例紹介

伊藤正利氏（社団法人日本建築家協会）

『「住まいのエコ化事業」および「専門家派遣・フォローアップ事業」』

ii) 2回目：実践講座「政策提言をするために知っておきたいこと」

日程：平成22年8月29日（日）10:00～12:00

場所：いわて県民情報交流センター アイーナ6F 団体活動室

会場参加者数：19人

インターネット中継参加者数：21名

内容：①実践講座

平井孝典氏（岩手県環境生活部環境生活企画室

温暖化・エネルギー対策担当 課長）

②ワークショップ

鳥居さくら氏（地球環境パートナーシッププラザ）

(4) 他の団体等への協力

東北地域内の国の出先機関や地方公共団体、NPO、事業者等に対し、必要な後援等や他の主体から協働・連携等の依頼があったもので、協働の推進に繋がるものについては下記の通り協力をした。

i) 名義後援・講師派遣・他

開催日	名称等	内容	主催
-----	-----	----	----

1	6月3日	第51回東北地方気候情報連絡会	委員	仙台管区气象台
2	6月15日	平成22年度第2回仙台広域圏ESD・RCE拡大運営委員会	委員	仙台広域圏ESD・RCE運営委員会
3	7月13日	フロン対策でSTOP温暖化	名義後援	NPO法人環境あきた環境フォーラム
4	8月3日	平成22年度第3回仙台広域圏ESD・RCE拡大運営委員会	委員	仙台広域圏ESD・RCE運営委員会
5	8月7日	平成22年度秋田県地球温暖化防止活動推進センター研修会	講師	秋田県地球温暖化防止活動推進センター
6	8月30日	第一回東北ESDフォーラム2010inあきた実行委員会	委員	東北ESDフォーラム2010inあきた実行委員会
7	9月30日	第二回東北ESDフォーラム2010inあきた実行委員会	委員	東北ESDフォーラム2010inあきた実行委員会
8	10月2日	第5回「エコライフ研修会&エコキャンドルコンサート」	講師	・大崎市教育委員会田尻支所 ・りっふる
9	10月14日	平成22年度第4回仙台広域圏ESD・RCE拡大運営委員会	委員	仙台広域圏ESD・RCE運営委員会
10	10月14日 ～ 10月16日	エコプロダクツ東北2010	ブース出展	NPO法人環境会議所東北
11	10月19日	第三回東北ESDフォーラム2010inあきた実行委員会	委員	東北ESDフォーラム2010inあきた実行委員会
12	11月7日	東北ESDフォーラム2010inあきた	委員	東北ESDフォーラム2010inあきた実行委員会
13	11月11日	第52回東北地方気候情報連絡会	委員	仙台管区气象台
14	11月14日	環境セミナーin八木山動物公園～地球温暖化と動物たち	パネラー	NPO宮城県地球温暖化防止活動推進ネットワーク
15	11月26日	政策提言セミナー・事前調査	仙台市への調査	NPO法人せんだい・みやぎNPOサポートセンター
16	11月27日	フロン対策でSTOP温暖化(北秋田市研修会)	コーディネーター	NPO法人環境あきた環境フォーラム
17	11月29日	「ダメだっちゃ温暖化」宮城県	委員	宮城県

		民会議・家庭部会		
18	12月16日	仙台広域圏ESD・RCE	委員	仙台広域圏ESD・RCE運営委員会
19	1月16日	政策提言セミナーin 仙台	調査結果発表	NPO法人せんだい・みやぎNPOサポートセンター
20	1月23日	仏沼の環境を考える	名義後援	NPO法人おおせっからんど
21	2月20日	NetPAGW 主催環境フォーラム「課題解決に向けて直面する問題と解決策を探る」	名義後援	NPO宮城県地球温暖化防止活動推進ネットワーク

(5) 次年度事業の方向性等

2 運営

事業運営を円滑に進めるため、以下について取り組んだ。

(1) スタッフ

専任のスタッフを3人役配置するとともに、0.5人役程度の事務補助を配置した。

- ・EPO 東北統括 井上郡康 (イノウエ クニヤス)

主な業務：EPO 東北の業務全般の運営管理を行う。またネットワーク構築をはじめとする基盤整備。

- ・スタッフ 佐々木雅博 (ササキ マサヒロ)

主な業務：ホームページ管理、メールマガジン、EPO 通信等の情報受発信に関する業務。またホームページ充実のための情報収集として先進的な事例や外部主催のイベント等にも積極的に参加。

- ・スタッフ 鈴木美紀子 (スズキ ミキコ)

主な業務：情報収集及びホームページ管理。取材活動を行いネットワークの構築と、そのネットワークを活かしたイベント企画・運営を中心に担当。

- ・サポートスタッフ

主な業務：情報収集及びホームページ管理をサポート的に行う。

(2) 業務運営計画の策定

事業体制を整え、計画的に事業を進めるため、契約締結後速やかに、中期運営業務計画・業務目標及び当該年度の事業方針、運営体制、人員計画、設備・施設の活用計画、年間事業計画等を記載した業務運営計画を作成した。

(3) 地方環境事務所との協働での事業実施

業務全般について、地方環境事務所と十分協議して進めるとともに、業務日については、運営・事業について、常に地方環境事務所から連絡・調整が取れる体制を構築した。

また、業務に必要な情報共有と実務レベルの意思決定のため、隔月に1度スタッフ、地方環境事務所及び請負者による「三者ミーティング」を行った。

尚、日常業務の情報共有には「スタッフミーティング」として隔週で行った。

i) 三者ミーティング

①第一回

日時：平成22年4月26日

内容：情報受発信の基盤整備について
会議の開催について
COP10 関連事業について

②第二回

日時：平成22年6月17日

内容：パートナーシップ団体会議開催に関する確認
催事企画について
情報受発信について

③第三回

日時：平成22年8月20日

内容：パートナーシップ団体会議の振り返り
今後の事業運営に関する確認

④第四回

日時：平成22年10月20日

内容：評議委員会の振り返り
ホームページの情報掲載について
催事の開催について

⑤第五回

日時：平成22年12月21日

内容：情報受発信について
催事開催の振り返り、企画進行状況の確認

⑥第一回

日時：平成23年2月8日

内容：評議員会への報告事項の確認

(4) 自己評価

以降の事業と運営に活かすため、事業評価（事業毎）及び運営評価（年一回）を実施した。

また、事業評価の参考とするため、事業毎に事業参加者に対するアンケート調査を行った。

(5) パートナーシップ会議の設置

i) EPO東北が各県での事業実施時に拠点となる中間支援組織等の団体（以下「パートナーシップ団体」という。）をメンバーとするパートナーシップ会議を設置した。

パートナーシップ団体一覧

No	県名	団体名
1	青森県	青森県環境パートナーシップセンター
2	岩手県	環境パートナーシップいわて
3	宮城県	せんだい・みやぎ NPO センター
4	宮城県	環境会議所東北
5	秋田県	環境あきた県民フォーラム
6	山形県	環境ネットやまがた
7	福島県	超学際的研究機構

ii) パートナーシップ団体会議の開催

パートナーシップ団体と連携して環境パートナーシップの推進を図るとともに、年2回程度各県のパートナーシップ団体を集めた会議を開催し、東北地域における環境保全における課題とEPO東北の事業について意見交換を行った。

①会議名：第一回 EPO 東北パートナーシップ団体会議

日程：平成 22 年 6 月 18 日（金）14：00～17：00

場所：東北環境パートナーシップオフィス会議室

出席者数：20名

内容：EPO 東北事業について意見交換

各パートナーシップ団体からの情報提供

②会議名：第二回 EPO 東北パートナーシップ団体会議

日程：平成 23 年 2 月 14 日（木）14：00～17：00

場所：東北環境パートナーシップオフィス会議室

出席者数：17名

内容：EPO 東北事業新着報告

他 EPO の事例紹介

意見交換

(6) 評議委員会の設置

- i) EPO東北の事業計画に意見を述べ、事業の方向性の提示をするとともに、EPO東北のコンセプトや役割を含めた基本的な方向性を検討するため、学識経験者（2名）、市民団体関係者（2名）、事業者団体関係者（1名）及び行政関係者（2県各1名）からなる評議委員会を設置した。

2010年度 EPO 東北評議委員会 名簿 (50音順)

No	所属	名前	備考
1	プランナー・NPOアドバイザー	遠藤 智栄	
2	宮城教育大学教育学部 教授	小金澤孝昭	
3	宮城県環境生活部環境政策課長	後藤 康宏	
4	環境カウンセラー協会	菅谷 匡	
5	財団法人 東北経済連合会	高玉 昌一	
6	東北大学・大学院環境科学研究科	新妻 弘明	
7	岩手県環境生活部 環境生活企画室 温暖化・エネルギー対策課 課長	平井 孝典	

ii) 評議委員会の開催

年2回程度開催し、協働のための情報・意見の交換を行った。

①会議名：第一回 EPO 東北評議委員会

日程：平成22年8月31日（金）13：30～15：30

場所：東北環境パートナーシップオフィス会議室

出席者数：16名

内容：H22年度EPO東北事業について、意見交換

②会議名：第二回 EPO 東北パートナーシップ団体会議

日程：平成23年2月24日（木）13：30～15：30

場所：東北環境パートナーシップオフィス会議室

出席者数：14名

内容：第1回評議員会で出された質問・意見について

H22年度EPO東北事業報告、意見交換

(7) 業務日及び施設等の維持・管理

- i) 業務日は、原則として月～金曜日（祝休日、盆3日、年末年始（12月28日～1月3日）は休業）とした。業務時間は、原則として午前9時30分から午後6時とした。事業等で事務室に不在の日等は、ホームページ等により周知を行った。

- ii) オフィスの運営に必要な機材等をそろえ、施設・設備の保守・使用料の支払等適切に維持管理した。
 - iii) 会議室については利用規程を作成して積極的に活用した。
 - iv) 事務所への来訪状況及び会議室利用状況は記録・整理した。
- (8) 個人情報の管理
- 業務で得た個人情報については、環境省保有個人情報管理規程などにより適切に管理を行った。

III 平成 22 年度事業の総括と課題

(1) 活動の主軸

- i) 環境パートナーシップの推進
- ii) 情報の受発信
- iii) 環境政策づくり

(2) 総括

i) 環境パートナーシップの推進

イベント開催をツールとして各団体とのパートナーシップ構築を進めてきた。今年度は点と点の繋がりが構築されてきている。また EPO 東北が所在地以外で活動を行う場合に直接地域に馴染んでいく事は時間がかかるが、本年度から設置した各県の拠点であるパートナーシップ団体との協働活動が助けとなり、各地でスムーズに事業を展開できた。次年度は点と点の繋がりを面の繋がりへと発展させる事業展開を目指したい。

ii) 情報の受発信については、

二期目に入りホームページのコンテンツを大幅に見直し、情報の探しやすさに主眼を置いたページ作りを行った。更にアクセス解析を導入し閲覧傾向を分析することで、求められている情報を探りニーズにあった情報配信を行った。

また、EPO 通信も紙面の全面リニューアルを行い、さらに環境配慮の視点から使用する用紙、インクの見直しを行った。ベジタブルオイルインクを使用したことで、EPO 通信の配布とともに環境団体に対する印刷物の環境配慮の啓発にも役立った。

iii) 環境政策づくりについては地域課題解決に繋がる政策提言セミナーを念頭に置き進めた。今回の大きな成果は、セミナー内容を基礎知識編、実践編と分けて行う事で、低いレベルからでも政策提言に馴染みやすく入り込める内容であった。

また EPO 東北、環境パートナーシップいわて、GEOC の三者が企画段階から協働で関わる事により、パートナーシップの在り方として良いモデルケースとなった。

次年度は、今回で得られたノウハウを更に広げ同じ問題を抱える圏域での協働事業を展開し点と点から面へのパートナーシップに発展させたい。

(3) 課題

i) 環境パートナーシップの推進

今年度はイベントを通じた環境パートナーシップの推進を行う上で点と点だけで終わっているため、今後は面への繋がるパートナーシップを構築し圏域での問題解決に向けた取り組みが課題となる。

また各県の行政との繋がりを環境省に大きく頼った部分があり、今後、行政との関係を構築し EPO 東北の事業展開にどの様に巻き込んでいくかが課題。

ii) 情報の受発信

ホームページの更なる充実が課題。平成 22 年 3 月 31 日にレンタルサーバーの契約期間満了を迎え第一期目までのホームページが使用不可になったのに伴い、新たにホームページ構築に迫られた。緊急で作られたので配色など更なる見やすいホームページのリニューアルが課題。

またイベント情報等について Web 等から収集する事に片寄っていることから、今後は EPO 東北へ積極的に情報の提供をいただくシステムの構築と、スタッフによるフェーストゥフェースの収集体制の検討も必要と感じている。

iii) 政策提言づくり

セミナー内容は充実したものの参加者が少なかったところに課題が残った。広く多くの人に知ってもらうためにセミナーをインターネット配信することで閲覧者数は多かったが、今後はネット閲覧者からも質問を受けたりアンケートを回収するような、双方向性を考慮した配信が課題となる。

セミナーの内容はわかりやすく勉強になったと好評であったが、今後参加者が政策提言を行うためには、調査の手法や調査結果の伝え方の手法、協働の支援を必要としていることがアンケートにより明確になった。政策提言活動の考え方を広めるアプローチと、活動しようと考えている団体への支援を行うことが求められている。